

環境モニタリングの結果及び令和5年度下半期の状況一覧表

資料 3

調査目的	調査名	調査項目	基準等	調査地点数	基準等超過項目			基準等超過項目の測定値(最小～最大)・基準値超過地点数				令和5年度下半期の状況	
					全期間(～令和5年度)	令和5年度上半期	令和5年度下半期	全期間(～令和5年度)	令和5年度上半期	令和5年度下半期	基準値等		単位
2.1生活環境 保全上の支障の 有無の把握	大気環境調査	ジクロロメタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン	大気環境基準	2地点	なし	-	なし	-	-	-	物質毎	μg/m ³	環境基準が定められている4物質、指針値が定められている6物質全てで基準値等に適合していた。
		塩化ビニルモノマー、1,3-ブタジエン、アクリロニトリル、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、水銀及びその化合物	指針値		なし	-	なし	-	-	-	物質毎	(ng/m ³ :水銀)	
		硫化水素、メタン、アンモニア	目標値		なし	-	なし	-	-	-	物質毎	ppm (mg/m ³ :メタン)	
	硫化水素連続調査	硫化水素	目標値	2地点	硫化水素	なし	なし	0.005未満～1.105	0.005未満	0.005未満	0.02未満	ppm	目標値に適合していた。
	放流水水質調査	○年1回調査項目 鉛及びその化合物、砒素及びその化合物、ほう素及びその化合物、ふっ素及びその化合物、アンモニア等(アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(SS)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)、フェノール含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量、大腸菌群数、ダイオキシン類 ○年4回調査項目 1,4-ジオキサン、pH	放流水基準	1地点	大腸菌群数	なし	なし	0.1～16300	190	-	3000以下	個/cm ³	放流水の水質は、すべての項目で放流水の基準に適合していた。 (過去に放流水基準を超過したことがある大腸菌群数については、令和5年度下半期は調査なし。)
	河川水水質調査	○年1回調査項目 鉛、砒素、ふっ素、ほう素、大腸菌数 ○年4回調査項目 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、1,4-ジオキサン、pH、BOD、SS、溶存酸素量	環境基準 上下流の比較	2地点	BOD、SS、溶存酸素量	BOD、溶存酸素量	BOD	上下流で同様の値を示す	上下流で同様の値を示す	上下流で同様の値を示す	対象毎	対象毎	上流側と下流側で同程度の値を示し、処分場からの放流水が周辺環境に与える影響は概ねないものと考えられる。
バイオモニタリング調査	AOD試験による半数致死濃度	指針値 上下流の比較	2地点	AOD値	-	なし	上流、下流ともに 170～1000	-	上下流で同様の値を示す	400以上	%	すべての測定時期でAOD値が400%以上であり、上下流の差は認められなかった。	

2.2浸透水等の 地下水の拡散 又はその おそれの把握	浸透水水質調査	○年1回調査項目 総水銀、六価クロム、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、塩化ビニルモノマー、アルキル水銀、カドミウム、全シアン、ホリ塩化ビニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チアミン、チオヘンカルブ、セレン ○年4回調査項目 鉛、砒素、1,4-ジオキサン、BOD、	地下水等 検査項目基準	11地点	鉛	鉛	超過なし	0.002未満～0.060(9地点)	0.002未満～0.032(1地点)	0.002未満～0.006	0.01以下	mg/L	BODで基準を超過する地点があり、緩やかな増加傾向を示す地点も確認された。
					砒素	砒素	超過なし	0.001未満～0.069(3地点)	0.001未満～0.015(1地点)	0.001未満～0.004	0.01以下		
					トリクロロエチレン	超過なし	-	0.002未満～0.019(1地点)	0.001未満	-	0.01以下		
					ベンゼン	超過なし	-	0.001未満～0.018(4地点)	0.001未満	-	0.01以下		
					1,4-ジオキサン	超過なし	超過なし	0.005未満～0.31(5地点)	0.005未満～0.023	0.005未満～0.033	0.05以下		
					塩化ビニルモノマー	超過なし	-	0.0002未満～0.012(1地点)	0.0002未満	-	0.002以下		
	地下水水質調査	鉛、砒素、1,4-ジオキサン、BOD	地下水等 検査項目基準	10地点	鉛	超過なし	鉛	0.002未満～0.083(6地点)	0.002未満～0.005	0.002未満～0.013(1地点)	0.01以下	mg/L	鉛、砒素は基準を超過しており、変動はみられるものの、概ね横ばいである。
					砒素	砒素	砒素	0.001未満～0.068(1地点)	0.001未満～0.014(1地点)	0.001未満～0.017(1地点)	0.01以下		
					BOD	超過なし	超過なし	0.5未満～27(3地点)	0.9～12	1.2～10	20以下		
	地下水水質調査	ほう素、ふっ素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	地下水環境基準	11地点	ほう素	ほう素	ほう素	0.02～31(11地点)	0.04～6.1(7地点)	0.03～3.6(6地点)	1以下	mg/L	ほう素、ふっ素で基準を超過する地点があり、変動はみられるものの、横ばいもしくは緩やかな低下傾向である。
					ふっ素	ふっ素	ふっ素	0.08未満～5.6(11地点)	0.08未満～1.9(5地点)	0.10～2.2(6地点)	0.8以下		
					ダイオキシン類	超過なし	超過なし	0.032～110(7地点)	0.033～0.48	0.036～0.69	1以下		
地下水水質調査	ほう素、ふっ素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	地下水環境基準	10地点	ほう素	超過なし	超過なし	-	-	-	物質毎	mg/L	基準に適合していた。	
				ふっ素	超過なし	超過なし	-	-	-	物質毎	mg/L	基準に適合していた。	
				ダイオキシン類	超過なし	超過なし	0.030～3.4(3地点)	0.033～0.90	0.032～0.28	1以下	pg-TEQ/L	基準に適合していた。	

調査目的	調査名	調査項目	基準	調査地点数	令和5年度下半期の状況
2.3処分場の状況 の把握	発生ガス調査	発生ガス(発生ガス量、メタン、二酸化炭素、硫化水素、酸素、孔内温度(管頭下1m)、気象(気温、気圧))	-	17地点	発生ガス濃度:硫化水素濃度は概ね横ばい傾向を示している。メタン濃度は変動のある地点もあるが、これまでの変動の範囲内で推移している。 発生ガス量:全地点で横ばいから低下の傾向が見られるが、調査地点のうち14地点ではガスの発生が非常に少なかった。
	地中温度調査	鉛直方向1m毎の温度、帯水域の温度	-	10地点	令和6年2月調査時に最も温度が高い地点はH16-13で、埋立区域外地点との温度差が8.2℃であった。令和4年12月調査時から温度が上昇しているNo.5では、低下傾向は見られるものの依然として温度が高い状況が継続している。また、令和5年9月調査時に温度上昇が確認されているNo.3、H16-5、H16-11については、令和6年2月には温度上昇はみられないため、季節的変動と推定される。その他の地点については概ね横ばいもしくはやや低下傾向で推移している。
	地下水水位調査	地下水水位、降雨量	-	21地点	変動の幅はこれまでと同様であった。
	多機能性覆土状況調査	硫化水素	-	26地点	-
	地表ガス調査	硫化水素	-	5地点	-

凡例

- 地下水等検査項目基準を超過したもの
- 環境基準を超過したもの
- 目標値を超過したもの
- 指針値を超過したもの

赤字表記(○地点)
- 基準・目標値等を超過する値
基準等を超過した地点数
評価期間中に調査なし